

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第5回こども部会				
(2) 開催日時	平成30年10月5日（金）9：30～11：30				
(3) 開催場所	本庁舎902会議室				
(4) 出席した委員、事務局等	委員 <span style="float:right">&lt;敬称略&gt;</span>				
	宮崎 渉	今岡 久美子	藤野 絵里子	志村 陽子	谷村 淳子
	福田 功志	宮嶋 祐紀子	吉田 紀代美	小池 優子	島村 勝
	stack 洋子	小野 英次郎	馬場 衣久美	野澤 景子	
	区職員				
	小鳥 彰子	本多 あゆみ	新屋 敬子	秋山 亮	田島 吉延
	事務局：小林 善紀、森崎 恵里、滝本 裕弥				
	欠席者：石川 智春、佐藤 渉、大岩 香代子、大島 涼、関 香穂利				
(5) 内容・要旨	<p>1 部会長の挨拶</p> <p>2 連絡・報告事項</p> <p>(1) 各委員からの情報提供</p> <p>① 運営会議の報告</p> <p>9月4日に実施した合同部会のアンケート集約結果をもとに、意見交換を行った。概ね実施して良かったという意見が出ていた。2回目以降も実施してほしいという意見も出ていたが、どのように開催していくかは今後の検討課題となった。</p> <p>また10月26日開催の第2回本会の実施内容も検討した。中間報告の時間を短縮し、討議の時間を多く確保することを確認した。</p> <p>② 児童発達支援地域ネットワーク会議（9月21日）の報告</p> <p>小グループに分かれてグループディスカッションを実施した。新規事業所も増えているなかで、事業の公平性や運営の適正化、リスク管理や防災に関する情報交換を行った。</p> <p>また、10月末で閉鎖となる事業所が一件あるという報告があった。当該事業所を利用しているこどもの次の行き先を探しているが、他の事業所も空きが多くあるわけではないため、難航しているという話があった。事業所閉鎖には様々な理由があると思うが、閉鎖に伴い一番に影響を受ける人はこどもになるため、そこを考えて運営していかないといけないと感じた。事業所の閉所の問題はPTAでも不安という声が上がっている。こどもが受ける影響は大きく、極力このようなことが起きないように部会でも検討していけると良い。</p> <p>③ おおたTS拡大イベント</p> <p>9月29日に実施した。実際におきた虐待事件の取材をしているルポライターの方から、現場の話を聞くことができた。虐待への対応について、「どこが取り組むべきか」という話ではなく、社会の構造自</p>				

体が、虐待が起こりやすくなっているという話が印象的であった。支援につながっていた親子が他地域に移ってしまうという話もあった。そういった視点では、ひとつの地域だけが虐待防止に取り組みれば良いということではないと感じた。

④ 防災部会の学習会について

防災部会にて自立支援協議会の委員を対象に、公開学習会を企画している。防災に関する取組みについて講義とワークを組み合わせた内容となる予定。

⑤ サポートセンター地域交流支援部門より

余暇活動のイベントの周知。それぞれのイベントにて定員が超えた場合には、抽選となる。

⑥ 健康づくり課より

大田区では初の試みとなる、「ひきこもり・生きづらさ茶話処」というイベントを10月22日に企画している。当日はひきこもりに関する支援者や当事者の方も参加する予定。広く周知してほしい。

⑦ 子育て支援課より

子育てハンドブック2018年度版ができた。それぞれの機関や所属にて周知してほしい。またこのハンドブックは、妊娠の際に地域健康課にて配布している他、児童館等でも配布している。

⑧ 映画「いろとりどりの親子」の情報提供について

さまざまな面で「違い」を抱えるこどもとその親が直面する困難や生活に焦点を当てたドキュメンタリー映画が、11月17日から公開される。多様性という言葉が多く取り上げられるようになってきているなか、ぜひ、多くの方に観ていただき、考えるきっかけとしていただきたい。

⑨ 児童虐待について

目黒の児童虐待事件について、厚生労働省が行った専門委員会の報告書がでたという新聞記事を紹介。今年度の自立支援協議会のテーマでもある「つながる・わたす・ひろげる」という視点で読み込むことができる。報告書については、厚生労働省のHPでも閲覧することができる。大田区の虐待対応マニュアルを障がい者総合サポートセンターの情報コーナーで閲覧することもできるため、確認しておくことが必要だと感じた。

⑩ 全国重症心身障害児（者）を守る会より

「初めて重症児を持つ親へのガイドブック」という冊子の情報提供があった。

⑪ 「平成30年度戦略的芸術文化創造推進事業」のイベントについて

肢体不自由児（者）父母の会を通して情報提供があった。文化庁委託事業として、10月21日に目黒区の中根小学校にて大道芸のイベン

トがある。13時30分から開演となり、無料で参加可能。

⑫ 心身障害児総合医療療育センター見学会の企画について

こども部会の委員を対象に、11月8日(木)午後施設見学を企画している。10名定員で予定しており、後日事務局より詳細を周知する。興味のある方はお申込みください。短期入所や医療的ケアの高い方の対応をしている病棟の見学ができるよう相談している。

(2) 事務局からの連絡事項

① 就労支援部会とこども部会の合同部会について

就労支援部会の検討課題として「多様な働き方の検討」や「新しいネットワークの構築」について取り組む中で、18歳における支援や制度の切れ目という課題があがっている。このことについて、こども部会の委員を招き、こどもの「働く」ということについて、意見交換ができればと考えている。参加が可能な方は、10月17日までに事務局まで申し込みをする。

3 本日の検討内容

(1) 事例検討

今年度の自立支援協議会のテーマである「つながる・わたす・ひろげる」の視点で、多機関連携を考えることを目的に事例検討を実施。

地域社会や支援事業所と適切な関係を構築することに課題があり、家族関係への介入や調整も必要な事例を紹介。本人(こども)が将来的にどのような選択をし、どのような福祉サービスを利用して地域生活を送るのかということについて検討・意見交換を行った。

主な意見として、

(i)ライフステージの移りかわりにより、これまでの支援者から次の支援者に生活や支援の情報を「わたす・わたされる」時、「こういった関わり方が本人に適していた」ということや「こういった支援方針で支援をしていた」などの情報がより多くあると良いという意見や、(ii)「つなぐ・つながる」視点で、支援者会議など行う際にどこが中心となればよいのか、などの意見があがった。

また、その他の意見として、(i)18歳以降を支援する障害福祉サービスでは、保護者や学校などから情報提供を受けることがあるが、18歳まで利用していた放課後等デイサービスや移動支援事業所との「つながり」は少ない。今後はそういった関係機関とも「つながる」ことが必要という意見や、(ii)支援者が中心で行う支援方針の検討は、よく「本人視点」と言われているが、議題にあがる困りごとは、支援者や家族が困っていることであることが多い。本当に本人が望んでいること、困っていることに着目して検討していけるようになると良いという意見、(iii)本人や家族関係の

課題点にのみ着目せず、今できていることを、いかに将来に「つなげて」  
いけるのかということをお大切にすべきである、といった意見があがった。

4 その他

(1) 11月の部会について

重症心身障がい児・医療的ケア児の地域生活をテーマに、ゲストスピーカーをお呼びして、実施する予定。詳細については、後日事務局より周知する。

(2) 12月の児童発達支援地域ネットワーク会議との合同勉強会に向けて

現時点で「防災」をテーマとして勉強会を行う案が出ている。詳細についてはこれから検討予定。

5 次回日程

平成30年11月9日（金）9時30分～11時30分

本庁舎 902 会議室